

榊原病院 Monthly

Vol.42 2020.June

独立行政法人国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

村田 昌彦(むらた まさひこ)
1962年生まれ
1991年富山医科薬科大学医学部卒
1996年同医学部大学院卒
2014年国立病院機構北陸病院精神科部長
2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院院長就任。
日本司法精神医学会理事。

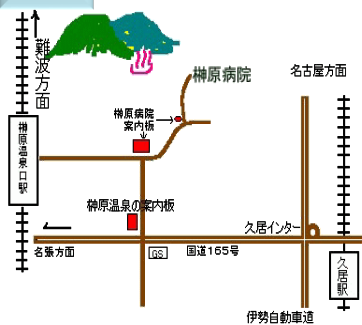


診療科

- 一般精神科
- アルコール・薬物依存症
- 専門外来
- こころのリスク外来

病床数 176床

- 精神科病棟 158床
- 医療観察法 18床
- 認知症ユニット



電車・バス / 近鉄久居駅下車、三交バス(榊原温泉口駅行)にて約30分。榊原口バス停下車徒歩約10分。

自動車 / 久居インター(伊勢自動車道)より西へ約20分

マイクロバス / 久居駅より直通バス(約25分)

病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

《榊原病院着任にあたって》

院長特任補佐 山崎 敏生

令和2年4月1日より榊原病院に、院長特任補佐として着任しました山崎敏生です。長野県生まれですが、大学の6年間は三重県で暮らしました。卒業後は長野に戻り県内のいくつかの病院に小児科医として勤務した後、平成15年からは国立病院機構小諸高原病院で、主に児童思春期精神科を担当してきました。本年3月で定年退職となりましたが、三重県で仕事を続けたいというわがままな私の願いを村田院長にお聞き届けいただき、着任することが叶いました。

仕事を始めてみるとパソコンの扱いをはじめとてわからないことや、前任施設とシステムが異なることが多く、皆様にご迷惑をおかけしておりますが、優しくご指導していただき大変ありがたく感じています。また、会議やミーティングの際には何とも優しい伊勢言葉が飛び交い、同じ日本ではありますが異郷の地にいることを実感しております。ちなみに、県外の方には長野県の言葉はきつく感じられるようで、故郷を出る際にくれぐれも気を付けるよう助言を受けてまいりました。なるべくしゃべらないようにしようと思っておりましたが、患者さんと面談した後に、立ち会った看護師さんから、「先生は江戸生まれですか」と尋ねられました。きっと、言葉がきつかったのでしょうね。

長野県では不登校、発達障害など、子どもの心身、精神に関連する患者の増加が顕著で、外来の予約が半年後であったり、患者が多すぎて予約を断る専門外来もありました。そろそろ、病んでいる個々の子どもを診るだけでなく、そのような子どもたちを生み出している世の中に目を向け、子どもたちが生きやすい社会を創ることを考えなくてはいけない時代が到来しているのではないかと思います。

皆さま、宜しくお願い申し上げます。



トピックス

行事・出来ごと

- 現在、建物の老朽化及び機能向上のため、病棟改修工事を行っております。病棟を入れ替えながらの改修となり、工事完了は令和3年5月を予定しています。
- 令和2年5月23日、市民公開講座「ギャンブル問題とその対応」 於:三重県人権センター(中止となりました)

地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていただけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和2年5月までに全症例は103例となりました。新規導入は3月3例、4月0例、5月2例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療・アルコール・薬物依存医療・こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈アルコール・薬物依存医療〉

適正な飲酒量とはどの程度かご存知でしょうか。「節度ある適度な飲酒」とは、純アルコールで1日約20グラム程度、つまり日本酒なら1日1合、ビールなら大瓶1本だけなのです。日本酒3合では健康に悪影響の出る「多量飲酒」（健康日本21）と言われています。もし減らすことが難しいという方がおられましたら、外来・入院での治療プログラムにてご協力させていただきます。お一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談下さい。ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に見見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内

新型コロナウイルス感染拡大防止のための休止期間を終え、デイケアが本格的に再開しました。休止期間中はご不便・ご迷惑をおかけし、申し訳ございませんでした。引き続き、密閉・密集・密接を避ける対策をとりながら活動を続けていきます。デイケアは病院1階にあり、月・火・水・金曜日の9時30分から15時30分の間で実施しています。その間の3時間のみを利用する、ショートケアも実施しています。近隣の散歩では榊原地区の穏やかな雰囲気を感じられます。ソーシャルスキルトレーニングや当事者研究、マスクを始め身の回りの物の作成、園芸、調理等の様々な活動をご用意しています。興味のある方は、ぜひ一度見学にいらして下さい。



(左) デイケアの畑に、大きな玉ねぎが実りました。
(右) 焼肉ちらし寿司を作りました。収穫した玉ねぎも味わいました。

栄養コラム



《 ありふれた情報社会、フードファディズムを理解して！ 》

テレビで、食に関する情報は日常的に取り上げられています。翌日にはスーパーで紹介された商品が売り切れるということもあります。「朝バナナダイエット」や「こんにやくダイエット」など流行したダイエット法は数多くあります。しかし、メディアで取り上げられる情報には注意が必要です。試験結果がマウスで実験した結果で、人に必要な量に換算すると決して食べきれない量である場合や、有害事例には触れられていない場合もあります。本当に効果があるものであれば、多くの方がずっと継続して新しいものは出てこないのではないでしょうか？フードファディズムは、このような「食べものや栄養が健康や病気へ与える影響を過大に評価したり信奉すること」を指します。食品は薬ではありません。「フードファディズム」を理解して、目の前の情報に踊らされないように注意しましょう！

帰ってきた！～健康睡眠12ヶ条～ (本稿は榊原病院Monthly Vol.27～39の再掲です)

第三条 よい睡眠は、生活習慣病予防につながります。

睡眠不足は、高血圧、糖尿病、ひいては不整脈、脳卒中、虚血性心疾患(心筋梗塞)、認知症などの合併症の危険性を高めることがあります。

あなたのイビキ、大丈夫ですか？

睡眠時無呼吸症候群は生活習慣病の大敵です。寝ている間のイビキが(呼吸が)止まっていると、睡眠時無呼吸症候群の恐れがあります。注意しましょう。

睡眠時無呼吸症候群には中枢型(脳の呼吸中枢の問題)と末梢型(気道...のどや気管の問題)があります。太っていると呼吸がしにくくなります。また、飲酒するとのどがむくみ、呼吸がしにくくなりますので、寝酒はやっぱりよくないですね。今日も良い睡眠をしっかりとって、健康な生活をおくりましょう。



